



岐阜陸上競技協会広報

創刊号 第1号

平成27年9月25日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp



「祝 岐阜陸協広報誌発刊 ― 広報誌の有効活用を―」

岐阜陸上競技協会会長 田口 利正

I 今回の広報委員会による“広報誌発行”素晴らしい事業と敬意を表します。

全員の心を一つにする言葉は多少意味の違いはありますが、1936年の東京オリンピック前後は経済の急成長もあり、企業力の向上の為、“右向け右”“金太郎あめ精神”“同音同響”“百万べん教育”“意思統一”“一心不乱”“一心一意”“一意専心”等々どちらかと言うと、上からの指示・命令により行動していた時代から、“情報”“情報”と情報が氾濫し自由気ままに動き始め、利用方法によっては大変良い成果が発揮できる反面、間違った(誤った)情報により組織の崩壊や人間関係の悪化にもなりかねない時代になってまいりました。

当協会においても“情報混乱”が皆無とは言えないのではないのでしょうか。この時期に会報誌の発行は実に効果的と思います。

各会議、話し合いの中では自由にどんどん意見を述べ、十分検討の上、一旦決まった事は例え反対であっても一心不乱に全員が邁進していただきたいと思います。各委員会・主任者会議・委員長合同会議・理事会・評議員会等意見を発表する機会は沢山あります。会議では全員が大きな“聞く耳”“聴く耳”を持ち現在の岐阜陸協、さらに将来の岐阜陸協の為に大いに意見交換をして全員の意思で決定していただきたいと思います。

先ほど述べましたが全員が同じ気持ちで、同じ方向に進むことが最強の力になると思います。全員がこの広報誌を大いに活用されることを望みます。

II 常日頃岐阜陸協・各地区陸協の大会、会議等に自らの家族と仕事を犠牲にして活動・活躍していただいている事に心から感謝申し上げます。特に各家庭の皆さんのご理解に頭が下がる思いです。ご家庭の皆さんありがとうございます。今後もよろしくお願いします。

III 岐阜陸協の競技力向上の為に、小・中・高・大学との情報交換を活発にし、普及・強化委員会が中心となり、“全員の力”で新人の発掘・強化に取り組んでいただき、一人でも多くの県民を東京オリンピックに参加させましょう!



「岐阜陸上競技協会広報誌創刊にあたって」

専務理事 黄倉 寿雄

今年で一般財団法人岐阜陸上競技協会として3年目を迎えました。この間、定款をはじめ財団法人として整備することが多々ありましたが、会員の皆様をはじめ多くの方々のご協力ご支援をいただき事業をすすめることができました。深く感謝申し上げます。

さて、かねてから懸案していました岐阜陸協広報誌を発刊することとなりました。この目的は、本協会の加盟団体および会員をはじめ他都道府県陸協や関係団体との情報交流の促進です。皆様のご協力をいただきながら岐阜の陸上競技を愛する多くの方々の意見、姿を紹介する広報活動となることを期待しています。

さて、本年6月に役員の改選がおこなわれ、評議員会・理事会において田口利正会長以下26名が選任されました。現在、県内の各種大会の企画・運営、強化普及事業、実業団、学連、加盟団体との協力事業に活動を展開しています。特に今秋、第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会、第36回全日本マスターズ陸上競技選手権大会と2つの全国大会開催を控え関係団体との会議、打ち合わせをはじめとした活動機会も例年になく増えています。その折にふれ、感じることは関係者からの岐阜陸協に対する期待と信頼感です。それは、ぎふ清流国体をはじめ過去の種々の大会開催における実績からくるものであり、先輩諸氏が築かれた岐阜陸協の歴史そのものであると思います。浅学な私にとって計り知れない責任感を感じることもしばしばです。いずれにしても、来県される選手監督役員をはじめ関係者に良い思い出となる大会となるよう皆様のご協力ご支援をお願いします。

岐阜陸協は岐阜県体育協会に加盟する地域団体を除く49競技団体の中でも大きな組織の法人化された競技団体の一つです。(県体育協会加盟競技団体で法人化されているのは2競技団体)70年前、本県における陸上競技の振興という普遍の目的を掲げて設立された岐阜陸協ですが、ぎふ清流国体を起点とした新たな本県のスポーツ振興政策の一端を担う競技団体として活動成果を求められています。法人化により役員の定年制度が導入されたとはいえ、様々な職種や年齢を越えて陸上競技の愛好者が集まって組織される岐阜陸協。その原点を忘れることなく本県の陸上競技の振興と発展の為に役員、協会会員が一丸となって、常に明日の岐阜陸協を見据えた活動に取り組むことが大切だと思います。今後とも皆様のご協力ご支援をお願いします。

専門委員会報告

総務委員会

総務委員会の役割としては

1. 理事会・評議員・各委員会等に関わること
2. 定款、諸規定に関すること
3. 栄章・記念章贈与に関すること
4. 競技要覧の作成
5. 地区協会に関すること
6. 日本陸連などとの連絡調整
7. その他協会運営に関することなどの業務をしています。

昨年度は定款の見直しを行いました。また地区協会との連携を強化し活動の活性化を図っています。

今年度の試みとして大会ごとに各審判主任の方に反省、課題等を書いていただくことにより、改善できるところはすぐに行動に移し、より良い競技会の運営をめざしています。

また3月に行われる栄章授与式の記念写真撮影実施や第80回記念岐阜県選手権には特別プレゼンター(小林史和氏、青木沙弥佳さん)を招聘し大会を盛り上げました。



青木沙弥佳さんと女子400m入賞者



小林史和氏と男子1500m入賞者

今年は全日本実業団対抗陸上、全日本マスターズ陸上など大きな大会が控えています。選手の方々だけでなく競技役員や観客の皆さんが一体となって競技会を盛り上げ、岐阜の地で大会を実施してよかったといわれる競技会開催を目指して業務を進めていきます。そのために各委員会の連携を密にして進めるだけで

なく、皆さまからのご意見やご協力をよろしくお願いいたします。

(委員長 藤村 純子)

財務委員会

■これまでの取り組み

財務委員会は、2012年度「ぎふ清流国体」等の開催により、基金の一部を活用するなど支出増に対応してまいりました。2013年度の岐阜陸協法人化に伴い、財政運用の健全化・透明性も含め各種改定を重ねる中、黒字転換を目指すことを第一目標に運営しています。取り組みとしては、「土屋基金の復元」、「競技役員の待遇改善」、「勘定科目の徹底」、(いずれも平成25年度計画)を目標として実施してきました。具体的には、増収対策として①小学生の登録制度導入、高体連登録料・大学生の登録料改定、②参加料の値上げ、③横断幕作成、大会掲示によるバナー広告の獲得、等を実施してきました。

■本年度目標

I、陸上競技人口、愛好者の拡大

小、中、高、大、一般の幅広い競技参加者の拡充を目指す。

II、強化費のアップ

岐阜から2020年東京オリンピック出場選手の輩出を目指す。

III、競技役員の待遇改善

選手と一体となって、競技力向上を目指すための労働に値する報酬に近づける改善を目指す。

IV、勘定科目の徹底

岐阜陸協法人化に伴う統一決算の実施を更に進める。

以上、健全で透明性のある財政運営を目指すとともに、適正な財政支援による事業の充実を図り、岐阜の陸上競技の発展に繋げていくことを目指していきます。

(委員長 奈波 宏和)

審判委員会

1.はじめに

審判委員会は、県内で行われる大会の審判編成をし、岐阜県内の陸上を愛する仲間たちに、4月から11月まで毎週のようにある大会の審判員の依頼をしています。毎週のようにメモリアルセンター長良川競技場や浅中競技場、中池競技場、星ヶ台競技場、中津川公園競技場、中山公園競技場で行われる大会に競技審判員として支えていただきありがとうございます。

また、審判技術維持や毎年少しずつ変更される競技規則確認のために、毎年審判講習会を各地区で開催をしたり、公認審判員取得講習会を開催したりしています。公認審判員には、B級、A級、S級と年齢と経験によって区別はありますが、審判活動としては何らかわることはありません。

2.審判養成

岐阜陸上競技協会としては、2015年6月現在、531名の方に

公認審判員として活躍していただいています。一つの大会を開くにあたって、大会の規模によって差はありますが、審判員は150名から250名程度必要としています。国体などのように全国規模の大会になると450名程の審判員が必要となります。下は最近10年間の岐阜陸上競技協会の公認審判員数の推移です。

年	合計	男	女	開催した主要大会
2005	623	534	89	全日本中学
2006	595	512	83	
2007	599	514	85	
2008	600	516	84	
2009	608	525	83	
2010	624	533	91	
2011	657	551	106	
2012	652	543	109	ぎふ清流国体
2013	614	522	92	
2014	617	529	88	
2015	531	445	86	全日本実業団

3. 今後に向けて

全日本中学開催以降、2012年に開催したぎふ清流国体に向けて、公認審判員を養成してきました。陸上経験者だけでなく、陸上を愛する方を募集し、2011年には岐阜陸上競技協会史上最大人数にまで増え、2012年のぎふ清流国体では多くの方に活躍をしていただきました。しかし、残念ながら、岐阜陸上競技協会も高齢化の波には勝てず、平均年齢が上がるだけでなく、国体を境に現役を引退される方が増えました。ここまで岐阜陸上競技協会を支えていただいた方々には大変感謝しています。

岐阜陸上競技協会が今後に向けてさらに発展進化させ、公認審判員の数を維持・増強していくためにも、若い方の力を必要とします。陸上を愛する方の参加を待っています。陸上の経験は問いませんので、やる気があれば十分です。一緒に審判活動を楽しめませんか。お待ちしております。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

競技委員会では、各地区陸協・強化委員会・普及委員会及其他外部団体との連携をはかりながら、円滑な競技会の運営と強化・普及の後方支援を行い(詳細別紙)、競技力向上はもちろんのこと、会員の皆様に陸上競技を「楽しんでもらえること」を目標に活動しています。

日常的には下記にあげる6つの業務が主な内容です。

1. 本協会の主催、主管する競技会の運営に関する事。

日本陸連への公認競技会実施の申請と報告を行う。また、競技注意事項など大会ごとの申し合わせ事項を作成する。
2. 競技会日程の編成に関する事。

ルールに定められたラウンド間を考慮しながら競技会ごとのタイムテーブルを決定する。また様々な条件を考慮して年間計画を作成する。

3. 競技会要項の作成に関する事。

運営上の問題点を改善し、次回要項に反映させる。

4. 競技会プログラム編成に関する事。

エントリーされたデータをもとに組数を決定し、プログラムを編成する。

5. 競技会参加者の登録資格に関する事。

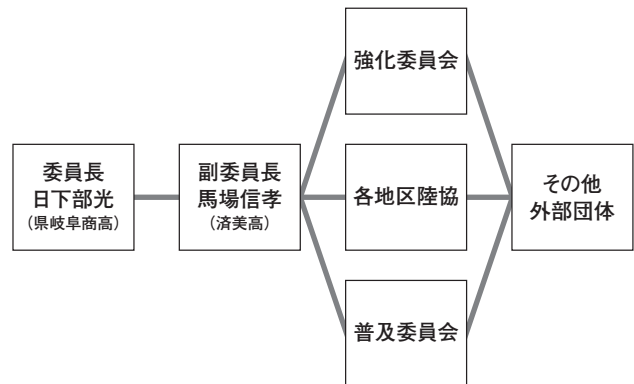
本協会への登録及び他県登録者の認知書確認や、参加標準記録に関する確認を行う。

6. その他陸上競技会の運営に関する事。

大会開催時は技術総務として、競技会の円滑な運営に務める。

今後も皆様からのご意見を参考にしながら、よりよい競技会運営ができるように取り組んでいきます。

〈(一財)岐阜陸上競技協会 競技委員会〉



■競技委員会の取組について

1. 各地区陸協との連携

- ・地区陸協主催大会の開催日時調整
- ・県陸協主催大会の地区開催についての連携と検討

2. 強化委員会との連携

- ・国体種目を見据えた競技会ごとの種目の検討
- ・都道府県対抗駅伝を見据えた競技会の検討
- ・強化・普及記録会の運営や開催時期・回数の検討

3. 普及委員会との連携

- ・小学生大会についての検討
- ・小学生記録会の運営や開催時期・回数の検討

4. 外部団体との連携

- ・競技会等運営

(委員長 日下部 光)

強化委員会

“岐阜から東京オリンピック出場者を”

今年度より強化委員長をやらせて頂くことになりました。よろしくお願ひ致します。昨年度までは国体強化スタッフとして10年ほど国体にも参加をさせて頂き、奇跡を自ら起こした岐阜国体。願ひ続け、追い求めれば夢、目標は実現する。そんな感動と一緒に味わうことができ、幸せを感じることができた一人でもあります。そんな前日下部強化委員長の思いを引き継ぎ、今年度から「東京オリ

ピック出場選手の育成＝岐阜の未来を背負う人材の育成」を大きな目標とし、スタッフも再編しスタートをさせて頂きました。また2年前からは中学強化部の指揮をとらせて頂き、「自立型人間＝優秀選手、優秀な中学生、優秀な人づくり」をテーマとして取り組みを進めていきました。

■人としての成長＝競技力の向上

競技力の向上、記録の向上、それを求めるのも我々の大きな役目ではありますが、そこだけを求めていると、一時は素晴らしい一陸上競技者であってもおそらく長続きはしていきかないでしょう。そんな選手(人材)を求めているのは本物の強いチームづくりにはならず、年々よい年もあれば一気に悪くなる時もあるように感じます。

「人としての成長＝競技力の向上」でなければならぬのです。我々はこの方程式をもとに、求めているかなければならないように感じます。

そこで「心・体・技」と大きく3つに分け、その一つ一つを分析していきます。競技力は「技」の部分となり、その下に大きな「体力」その下にもっと大きな「心」が存在します。その「心」が大きく一選手を成長させ、長続きができる、そして一人の人としてどんな場面でも活躍をすることができます。

では心を育てるにはどのようにしたらよいのか?挨拶をする。礼儀を正しくする。それは当たり前なこと、どこの学校や県でも取り組んでいます。「自分の弱さは何なのか?」「それを克服するためにはどんな行動をしたらよいのだろうか?」そんな自分を見つめさせ、必要であることを毎日継続させることで本当の強い心をつくり上げていきます。例外をつくってははいけません。何があろうと続けるのです。そんな強い意志力と行動力が自分への自信となり、競技でももちろんそれ以外でも堂々と行動できるようになっていきます。そんな心を育てながら、必要な体力を考え、自分の種目にはどの筋力が必要なのか?どんなトレーニングをやらねばならないかを、自ら実感し、そのうえにより早く、より遠くを求めるために技術論を考えていきます。

■指導力の向上

そして何よりも選手に求める前に指導をするスタッフが理解し、力をよりつけていかねば、選手は成長していくはずがありません。スタッフ自身がよく考え、よく学び、より自信を持って指導に当たれるようにお互いに力をつけていく必要があります。指導者以上に選手は成長することはできません。そのために我々は「日本一のスタッフ」を目指していかなければならないと考えています。

このような取り組みを2年間行ってきましたが、選手自身も全国での入賞を狙える選手が随分と増え、人としての成長も多く見られるようになってきました。また我々のこの取り組みを評価して頂き、他県からも多くの指導者が見学に来て頂けるようになってきました。

このような取り組みを前提に、小、中、高の連携を確立させ、岐阜県独自の方法を創り出し、息の長いチーム作りをしていけたらと考えています。そしてまずは長崎国体70点の獲得を目指してい

きます。そして目指すは東京オリンピックです。

ご指導、応援をよろしくお願い致します。

(委員長 森 光弘)

普及委員会

普及委員会の主な活動は、陸上競技教室や競技会運営を通して、小中学生の普及振興にあたることです。また、その機会に有望競技者の発掘をおこなったり、指導者の研修の充実を図ることです。

普及委員会では、岐阜・西濃・東濃・美濃・可茂・飛騨の6地区ごとに分かれて各地区、年に10回程度の合同練習会、陸上教室、記録会を開催しています。そこで、より多くの小中学生に、「より速く走ったり、より遠くに跳んだり、投げたり」する陸上競技の楽しさを広めていっています。

初心者から上級者まで、競技レベルに応じた練習、各種目ごとに技術力向上を目指した専門練習、さらには冬季練習や補強の行い方など様々な状況に対応した練習を行っています。

また、県全体としても、小学生の全国大会出場者を対象とした合宿や練習会を、中学生の東海・全国大会に出場し入賞を目指した普及・強化合宿や練習会を行なっています。この活動を通して、優秀な選手のさらなる競技力向上にも努めています。事実近年では、小中学生の東海、全国レベルの大会での入賞者も増えてきており、その成果が見られてきています。

指導は、主に各地区の普及委員会メンバーが中心となり、各スポーツ少年団、各学校の指導者が協力しながら行っています。時には外部から優秀な選手や指導者を招いて陸上教室を行うときもあります。

このような練習会を通して、各学校ごとに行っている練習の方法を互いに知ることによって交流の場ができると考えており、より効率のよい指導方法の研修の場になればと考えています。また、優秀な指導者から理論やその理論を身につけるための練習方法を学ぶ機会を通して指導方法の向上も図っています。

練習の成果を発揮できる場の1つとして、7月に行われる全国小学生陸上交流大会岐阜県予選会、岐阜県陸上スポーツ少年団・小学生交歓陸上競技大会兼全国小学生クロスカントリーレー大会選手選考会と11月に行われる岐阜県ジュニア地区対抗陸上競技大会の企画・運営をしています。より多くの皆さんが気軽に参加できるような大会、選手の皆さんが少しでも良い記録ができるような大会運営を目指しています。

普及委員会としては、一人でも多くの人が、陸上競技と出会うことができるように、また、陸上競技に出会った多くの人が陸上競技の楽しさを知ることができるような機会を作っていきたいと思っています。そして将来、この中から日本の世界のトップアスリートが生まれてくることを期待しています。



全国小学生陸上大会出場者合宿ウォーミングアップ風景

(委員長 久川 直之)

駅伝・道路競技委員会

■ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会を振り返って

岐阜県で平成24年の「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」の開催が決定され、県民参加の気運を一層高め、中学生・高校生・一般の男女が各地区の代表として競技力の向上及び県内各地域の交流をさらに促進させるため、「第1回ぎふ清流地区対抗駅伝競走大会」が平成21年10月18日に県内各地域から11チームが、岐阜県庁～羽島市文化センター折り返し2往復10区間の(38.0Km)で開催され、飛騨地区が終始強さを発揮し優勝、第2位は西濃地区、第3位は岐阜地区、第4位は東濃東部、第5位は東濃西部、第6位は美濃地区が入賞しました。

第2回大会は小学生を含めた12区間(42.195Km)に変更し12チームが参加して、飛騨地区が安定した走りで連覇し、第2位には第11区でトップに出た東濃東部、第3位は岐阜地区、第4位に東濃西部、第5位西濃地区、第6位は大垣市でした。

第3回大会は昨年までの「地区対抗駅伝」から新たに「郡市対抗駅伝」として23チームの各郡市からの選抜された精鋭によって激しいレースが展開され、大垣市が最終区で、多治見市を振り切り初優勝、第2位は多治見市、第3位は下呂市、第4位は高山市、第5位は中津川市、第6位は瑞浪市でした。

第4回大会は参加チームも24チームに増え、各市の参加に対する取り組みも充実し、大垣市が今回も最終区でトップに躍り出て連覇を果たし、第2位には前回3位の下呂市が入り、第3位は大健闘の土岐市、第4位瑞浪市、第5位岐阜市、第6位は多治見市でした。

第5回大会は雨の降りしきる悪天候の中、24チームが力走、終始トップを走り4人の区間賞を出した多治見市が初優勝を果たしました。第2位は昨年に続き下呂市、第3位は高山市が昨年3位の土岐市は僅かの差で第4位となりました。第5位は瑞浪市、3連覇を目指した大垣市は6位に終わりました。初優勝の多治見市から1996年アトランタ五輪に出場した実井謙二郎選手が、他の若い選手に混じって堅実な走りで多治見市の初優勝に貢献しました。

第6回大会は参加チームが増えて25チームでの競い、高山市が終始安定した走りで最終区において大垣市を突き放して初優勝を果たしました。第2位は高山市と最後まで激しく競り合い最終区で逆転された大垣市、第3位には昨年惜しくも第4位だった土岐市、第4位は下呂市、第5位は岐阜市、第6位には瑞浪市、前回優勝の多治見市は惜しくも第7位でした。

第7回大会は10月18日に開催されますが、各郡市において選手の選考や、合同練習など大会に向けて着々と準備に入り、今年こそは優勝、上位入賞を目指しておられると期待しております。

■岐阜県駅伝競走選手権大会について

東海地方最大の歴史と伝統を誇っていた「名岐駅伝」(大垣～岐阜～名古屋)が交通事情の悪化により、選手や駅伝ファン の存続を願う気持ちも届かず中止となりました。

岐阜県内においても駅伝の開催が将来難しくなってくるであろうと予想されている中、東濃地区で開催されている伝統ある中山道東濃駅伝(中津川市～多治見市)7区間(53.15Km)が平成25年第60回記念大会を迎えることになり、駅伝を継続していくために大会の規模・コースの距離等いずれも近県では最高の駅伝競走大会であることから、中山道東濃駅伝競走大会に、岐阜県駅伝競走選手権大会を併設して、県内最高の駅伝競走大会に位置づけし駅伝の継続と競技力の向上を願いながら、実施することになりました。

第1回大会の一般の部で選手層の厚い岐阜経済大学が圧倒的な強さで優勝。高校の部は中京高校が、女子の部では土岐商業高校が優勝しました。

第2回大会でも一般の部は岐阜経済大学、高校の部は中京高校、女子の部は、土岐商業高校がそれぞれ優勝し、二連覇を果たしました。

■委員会活動について

駅伝・道路競技委員会は各地区から経験豊かな委員によって定期的に会議を開催したり、各地区で開催される駅伝・ロードレース等視察し、開催における留意点、改善点及び大会開催の協力体制等について駅伝・ロードレースが中止されることが無いように協議・研究をしています。

(委員長 馬場 保)

記録・情報処理委員会

1.はじめに

記録・情報処理委員会では、2000年の岐阜インターハイに向けてコンピューターによる競技記録処理システムを導入して以来、大会運営の根幹にかかわる業務を担っています。近年、地区や郡市レベルの大会でもプログラム原稿の作成、ホームページ等でのリアルタイムな情報提供や競技終了後の総合記録表作成まで、一貫して行えるシステムを用いることが定着してきました。また、県レベル以上の大きな大会ではトラック競技のみならず、フィールド競技でも競技と同時に進行で記録処理を行うこともあり、大型映像装置が設置されている競技場では、スタートリストや競技結果をただちに発表することができるようになっています。ただ、全ての大会でコンピューターを用いた運営ができるわけではないため、コンピューターを利用するしないにかかわらず、番組編成、記録集計・配布、公認記録申請書作成等を行います。

2.主な役割

記録担当の役割

- ①岐阜陸協登録者、岐阜県出身者の記録の収集・保存
- ②陸上競技10傑表作成
- ③競技会の公認申請
- ④岐阜陸協HPでの情報公開
- ⑤報道機関への情報公開

情報処理担当の役割

- ①競技会における情報システムの活用推進
- ②情報機器活用の全県的なサポート
- ③公認申請書類の作成
- ④top8、記録集(Results)、HTMLの作成

3.今年度の目標

公認競技会の競技記録公認申請100%

作業の簡素化、作業ミス0(ゼロ)に向けて作業改善

イベントプレゼンテーション型の魅せる競技会に向けた対応

4.さいごに

私自身まだ着任したばかりで手探りの半年間でした。最年少理事として新しい取り組みに積極的にチャレンジし、先輩方の築いてきた岐阜陸協をより良くしていけるよう微力ながら努力していきます。選手の皆さんが岐阜県内の公認競技会で出した記録は私たちが責任を持ってすべて日本陸連へ公認記録として申請しています。どんなに月日が流れて皆さんが忘れてしまっても記録は永遠に残ります。今後もこの記録(=財産)をしっかり収集・保存していきたいと思います。よろしく願い致します。

(委員長 山下 和行)

施設用器具委員会

各種陸上競技大会、ロードレース、マラソン大会等において公認記録として認められるには規定はいくつかありますが、要約すると以下ようになります。

- ①日本陸連または都道府県陸上協会が主催・共催あるいは所管する競技会。
- ②出場者が登録会員または登記競技者に限る。
- ③公認の競技場・競走路・競歩路で開催されること。
- ④補助員を除き、公認審判員が審判すること。

この中で、施設用器具委員会としては③の公認施設としての維持管理に関係した活動を行っております。具体的には、用器具の管理、点検、補修等。競技場の検定及び施設の点検。長距離競走路の検定及び点検、距離ポイントの計測、位置の明示等を随時行い、選手が作った記録が公認と認められる条件の一つとして重要な活動となります。

公認陸上競技場は日本陸連が検定を行い規格に適合していれば5年間の公認期間がいただけます。用器具、備品の数も施設の一部という扱いであるため破損や紛失等により公認の継続

が困難となります。また、公認長距離競走路ならびに公認競歩路においても運営上の問題や道路工事等によりコースの一部が変更となった場合、公認と認められない場合があります。

検定制度の概要

公認制度を設ける目的は、陸上競技の練習ならびに競技会の運営が支障なく行われ、競技場、競走(歩)路で樹立された記録が十分信頼し得るように建設、整備、維持を指導し、日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の陸上競技会を開催し得る十分な精度のある、適切な施設であると認定するものです。また、競技会に使われる用器具が十分信頼できるよう検定するものです。

検定の方法

公認陸上競技場は種類によりますが、日本陸連より委嘱された検定員、区域技術役員により測量を行い報告書を作成し日本陸連へ提出します。(現在、岐阜県には検定員不在)

公認長距離競走路、競歩路はワイヤー方式と自転車方式(IAAF/AIMS認証コースは自転車方式)があります。ワイヤー方式は日本陸連より委嘱された検定員、区域技術役員により測量を行い、自転車方式は日本陸連より委嘱された自転車計測員により測量を行い報告書を作成し日本陸連へ提出します。(岐阜県はすべて自転車方式)

平成27度検定箇所

ぎふ清流ハーフマラソン(継続)5/17大会当日検定

検定者 平塚和則(国際計測員)
桑原義貴(B級計測員)
松田哲明(C級計測員)

各務原市総合陸上競技場(新規)7/9、7/10検定

検定者 高沼正利(本部検定員)
松田哲明(区域技術役員)
堀 一智(区域技術役員)

岐阜メモリアルセンター長良川競技場(継続)8/1、8/2検定

検定者 高木良郎(本部検定員)
青木 実(愛知検定員)
堀 一智(区域技術役員)

ぎふ清流ハーフマラソン(一部変更)9月予定

岐阜メモリアルセンター長良川競技場補助競技場(継続)3月予定



各務原市総合陸上競技場





ぎふ清流ハーフマラソン



(委員長 松田 哲明)

女性委員会

女性委員会は25年度に立ち上げました「託児室開設」が主な活動となっています。審判要請があっても幼い子どもがいては、なかなか応じられないと言ったこともあり、託児室の開設に至りました。当初は女性審判員を対象としていましたが、男性審判員からの依頼もありそれぞれにご好評をいただいています。

対象は小学校入学までの幼児としています。子どもたちは保育士(有資格者)と大学生ボランティアによって世話をしています。また幼児、保育士、学生ボランティア全員に1日傷害保険に加入をしています。

実施実績として

25年度 5競技会(6日間) 託児幼児 14名

26年度 4競技会(6日間) 〃 17名

と預かりました。

27年度は全国大会もあり6競技会12日間の開室の予定をしています。

子どもたちは、ベテラン保育士の方々、大学生ボランティアのみなさんと室内遊びや競技場周辺の散歩をするなど楽しく過ごしています。

まだ要請はありませんが、ママさん選手からの依頼にも対応したいと考えています。将来、託児室で遊んでいた子供たちが、競技者としてグランドに立つことを夢見ています。

また女性委員会としては、女性審判員の増員を目指しています。現在(27年度)の女性公認審判員は86人の登録にすぎず、十分な人数とはいえません。今後、審判員の増員を目指していきたいと考えています。

(委員長 浅野美津子)

医事委員会

本委員会は、平成27年度から活動を開始しています。他県においては、医事委員会なるものを数年前に組織し活動していますが、本県でも、その重要性を考慮し本年度から設置したところです。今年度は、体制(組織)を固めつつ、やれるところから少しずつ活動していこうと考えています。

主な活動は、競技会へのドクター・看護師派遣に関すること、競技会におけるトレーナールーム開設に関すること、国体へのドクター・トレーナー派遣に関すること、スポーツ医学の研修会に関することです。すでに、6月の西日本学生陸上競技対校選手権大会

及び7月の第80回記念岐阜県陸上競技選手権大会においては、関係団体とも連携し、トレーナールームを開設しました。選手へのマッサージなどコンディション面でのサポートや怪我の応急処置を行いました。今年度は、9月の第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会と10月の第36回全日本マスターズ陸上選手権大会においても、同様な活動を行う予定です。また、6月に開催された日本陸上競技連盟の医事委員研修会に、渡辺郁雄医療部長が参加しました。さらに、年度末には、「スポーツ医学」に関する研修会を計画しています。

最後に生まれたての「医事委員会」の活動をご理解いただくとともに、あらゆるご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

〈委員会一覧〉

	氏 名	所 属 等
医療部長	渡 辺 郁 雄	渡辺内科クリニック院長
委 員 長	河 島 正 弘	岐阜県立加納高等学校(日本陸連コーチ)
副委員長	高 橋 洋 介	高橋鍼灸整骨院(日本陸連A級トレーナー)
委 員	安 藤 雅 紀	岐阜県立山県高等学校
委 員	早 野 健 太 郎	けんたろう鍼灸整骨院
委 員	梶 浦 由 美 子	岐阜県立大垣特別支援学校

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

本委員会は、本年度より新しく発足した委員会です。委員会を設けた目的は、広報誌発刊を中心とした広報活動により、岐阜陸上競技協会の活動・取り組みを会員相互はもとより広く県内外にお知らせすることにあります。事業に取り組むにあたり、岐阜陸上競技協会の各組織の協力を得て取り組むこととなりました。

委員会スタートの平成27年度は創刊号を含め2号発刊を計画しています。平成28年度以降は年間2～3号発刊とし、将来的には状況により増刊号も発刊できればと考えています。送付対象としては、岐阜県陸上競技関係団体、登録会員を中心に全国陸上競技関係団体を含めて送付を計画しています。配布対象・発行部数に関しては今後検討していく予定です。創刊号では陸協各委員会、地区陸協の取り組みを中心に紹介します。

平成28年は岐阜陸協70周年の年となります。記念事業の関連記事掲載を検討しています。又、将来的には県内の活躍するチーム・学校・選手等の様々な取り組みを紹介できればと考えています。

〈広報委員会組織〉

委 員 長	木 下 克 己	※編集委員長
副委員長	原 清 隆	※編集副委員長
編 集 委 員	①山田 緑 ②(※未定)	※2名で構成。事務局員として編集作業の実務にあたる。
地区陸協編集委員	岐阜地区・河野 康彦 東濃地区・江崎 尚 西濃地区・土屋 雅敏 中濃地区・渡邊 宗治 飛騨地区・坂谷 幸紀	※各地区にて各1名選出。原稿依頼、回収、校正作業にあたる。

(委員長 木下 克己)

各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

岐阜地区陸上競技協会も協会の皆様のご協力を得て、活動を続けていくことができました。おかげさまで昨年度は念願であった、岐阜地区陸上競技記録会兼ジュニア地区対抗陸上岐阜地区予選会の第1回を開催することができました。

この記念すべき第1回記録会には一般・高校の部に194名、中学の部に389名、小学生の部には254名の合計837名の選手の皆様の参加と、88名の審判員の皆様のご協力を得ることができ、盛大に開催することができました。

そして、その後の岐阜県ジュニア地区対抗陸上競技大会では以下の結果を残しました。

男女総合	331.5点	第4位
男子	168.0点	第4位
女子	163.5点	第2位

この結果を受け、本年度は出場選手を一堂に集め強化練習等を実施し、昨年度より少しでも上の順位を目指そうと役員一同考えており、岐阜地区陸上競技協会が、よりすばらしい活動を続けていくことができますように引き続き努力を続け参ります。

その一つとして、本年度も第2回の岐阜地区陸上競技記録会を開催いたしますので、昨年度以上の選手の皆様のご参加をお待ちいたします。

尚、以下に昨年度と本年度の岐阜地区陸上競技協会が行い、お手伝いをいたしました活動を載せさせていただきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成26年度活動記録

平成26年 5月5-6日	岐阜県高校総体岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成26年 6月15日	岐阜県中学総体岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成26年 8月30日	第1回岐阜地区陸上競技記録会兼ジュニア地区対抗陸上岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成26年10月18日	岐阜地区高校総合体育大会(長良川競技場)
平成26年 5月11日	第1回理事会(長良川競技場会議室)
平成27年 3月4日	第1回常務理事会(グランパール岐山)
平成27年 3月15日	第2回理事会(岐阜市北部体育館)

3氏を岐阜陸上競技協会26年度功労賞として推薦、受賞。

吉村優治氏(本巣陸協)
松浦正泰氏(岐阜陸協)
内田匡俊氏(岐阜教員クラブ)

平成27年度活動計画

平成27年 5月2-3日	岐阜県高校総体岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成27年 6月14日	岐阜県中学総体岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成27年 8月30日	第2回岐阜地区陸上競技記録会兼ジュニア地区対抗陸上岐阜地区予選会(長良川競技場)
平成27年10月12日	岐阜地区高校総合体育大会(長良川競技場)
平成27年 5月	第1回理事会
平成27年 7月	第1回常務理事会
平成27年 9月	第2回常務理事会
平成28年 1月	第3回常務理事会
平成28年 3月	第2回理事会

(岐阜地区陸上競技協会理事長 小森 博昭)

東濃地区陸上競技協会

東濃地区では、西から多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市の5市の陸上競技協会が東濃地区陸上競技協会を構成しています。

活動としては他の地区同様、陸上競技の大会運営が中心であり、小学生中心の大会から、中体連関係、高体連関係、一般まで各種の大会が開催されています。その中で東濃地区としての特色のある大会をいくつか紹介し、活動紹介にかえます。

1.岐阜陸協主催春季・秋季記録会

毎年、春季記録会(多治見市星ヶ台競技場)と秋季記録会(中津川公園競技場)の2大会が開催されています。特に、4月に開催される春季記録会は、初旬の開催であるので、新年度がスタートしたばかりの体制で、申し込み方法や機器の調整等でのトラブルがありました。今後、スムーズな大会運営ができるようにしていくことが課題となります。

2.恵那峡ハーフマラソン

この大会は東濃地区唯一の日本陸連公認ハーフマラソンとなっており、今年で第14回を迎えました。(公認コースは8回目)

「笠置山スーパーマラソン」を前身として起伏のある難コースとしても有名で、この難コースに挑戦し、全国から参加申込があります。東濃地区陸上競技協会と恵那峡ハーフマラソン実行委員会が主催者となり、陸協は主として公認競技の円滑な進行・運営に力を注いでいます。

3.中部実業団陸上競技選手権大会兼多治見フェスティバル

中部実業団の大会は、春に長良川競技場で「中部実業団対抗陸上競技大会」が行われ、秋には「中部実業団陸上競技選手権大会」が多治見市星ヶ台競技場にて行われ、今年で第16回目を迎えます。東濃地区の競技者にとっては中部あるいは全国の一流選手が間近でみられることで、小・中・高校生をはじめ、多くの観客で賑わう大会となっています。

4.中山道東濃駅伝大会

昭和22年に始まった大会で、途中、6年間の中断があったが、当時の関係者の大変な努力により復活を果たした駅伝です。

今年で第62回を数え、東濃の東の中津川市より恵那市、瑞浪市、土岐市を經由して西の多治見市までの53キロ余を駆け抜ける歴史ある駅伝大会です。名岐駅伝の中止により第60回大会より「岐阜県駅伝競走選手権大会」を兼ね、さらに権威ある大会となっています。

東濃地区陸上競技協会と中日新聞社が主催で、多治見、恵那、中津川各警察署の指導を受けながら、歴史ある大会を事故なく、安全に開催できるよう実行委員会で検討を重ねてきています。

(東濃地区陸上競技協会理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

1.概要

西濃地区陸上競技協会は、青少年の健全育成・体力向上と陸上競技の普及・強化を目的に、戦後間もなく発足し現在に至っています。

当陸協は昭和26年に公益財団法人大垣市体育連盟(当時は任意団体)の結成に深く関わり、長年体育連盟の一翼を担ってきましたが、現在は昭和50年に当陸協から分離独立した大垣市陸上競技協会が加盟しています。

施設整備は、昭和38年に大垣市北公園陸上競技場(平成26年改修)、昭和62年に大垣市浅中公園陸上競技場(平成21～22年改修)が竣工し、ハード面の整備は着実に推進されてきました。

当陸協の中核事業である西濃陸上競技選手権大会は、昭和30年に始まり、今年第61回を開催した。最近では西濃地区のみならず、岐阜地区からも多数の選手が参加しています。

また、今年28回目を迎えるいびがわマラソンは、全国各地から1万人を超えるランナーが参加する大会に発展しました。これもひとえに地元揖斐川町をはじめとして地域の皆さまによるご尽力の賜物であります。

近年、社会問題となっている少子高齢化・人口減少は、当陸協としても無縁ではなく、役員の高齢化と後継者不足の解決は喫緊の課題であります。

2.主催・主管事業

- ・西濃陸上競技選手権大会
- ・いびがわマラソン
- ・県ジュニア地区対抗西濃地区予選会
- ・米国セントジョージマラソン視察派遣
- ・陸上教室(小・中学生／月1回)
- ・西濃地区審判登録(大垣陸友クラブ)及び審判講習会
- ・大垣市陸上スポーツ少年団

3.後援・協力事業

- ・大垣市陸上競技選手権大会
- ・大垣市民総合体育大会
- ・水都おおがき芭蕉マラソン
- ・城下町おおがき新春マラソン
- ・中日西濃駅伝競走大会
- ・岐阜経済大学陸上競技記録会
- ・I・H西濃地区予選会
- ・西濃地区高等学校総合体育大会
- ・西濃地区中学校陸上競技大会
- ・岐阜県民スポーツ大会選手選考
- ・ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会選手選考

4.組織

(1)歴代会長・理事長

- 会 長 堀内 健男(昭和26年～30年)
川崎貞三郎(昭和31年～38年)
大熊 武(昭和39年～43年)
山盛 正幹(昭和44年～46年)
廣實 明(昭和46年～49年)
山中 茂樹(昭和50年～59年)
田口 利正(昭和60年～現在)
- 理事長 馬淵 弘(昭和26年～32年)
室 和(昭和33年～46年)
早崎 重恭(昭和47年～平成2年)
後藤 勝二(平成3年～17年)
牧野 安孝(平成18年～現在)

(2)平成27年度役員

- 会 長 田口利正
副会長 山本敏彦
理事長 牧野安孝
- 常務理事 石原好之 臼井 隆
石田 武 石田 仁
- 理 事 土屋雅敏 安福弘典
勝木秀和 高木敏夫
高橋良司 高橋雅久
高橋恭二 清水裕晶
片田泰郎 森 光弘
酒井俊輔
- 監 事 酒井清司 野川光義
事務局 馬場 保 福島知則

5.むすび

最後になりますが岐阜陸上競技協会の傘下団体として5年後の2020年に開催される東京オリンピック、パラリンピックにおいて当地区から一人でも多くの選手が出場できるよう競技力の向上を目指してゆく所存であります。

(西濃地区陸上競技協会理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

広報誌創刊にあたり、中濃地区陸上競技協会の紹介をします。

中濃地区陸上競技協会は美濃地区(3市)と可茂地区(2市2郡)の小学生から一般までの陸上愛好家で構成されています。

これまで中濃地区には土のグラウンドしかなく、中濃地区大会や県民大会等の競技会を開催しても雨の日は泥沼の中で行うか、または中止になっていました。

しかし平成24年度に中池公園陸上競技場が改修され、全天候型競技場になったことにより、雨の日でもグラウンドコンディションをきにせずに競技会を開催できるようになりました。

また、以前には美濃地区と可茂地区に分かれて活動していた

ため、競技会運営や選手の強化育成に大変苦労しましたが、平成26年度からは中池公園陸上競技場を使用して両地区で合同競技会を年2回開催し両地区の交流と選手の普及強化に取り組んでいます。

中濃地区陸上競技協会は選手400余名、審判員60余名の会員で組織されていますが、少子化等で陸上競技離れによる選手の減少と審判員の高齢化による減少が進んでいます。そのような中、2地区の関係者の努力と支援、そして中池公園陸上競技場を中心に充実した練習環境も整い選手強化ができるようになり、各市町の小学校、中学校、高校そして美濃加茂スポーツクラブに代表されるクラブチームなどから県大会をはじめ東海大会、全国大会で優秀な成績を収める選手が出てきています。

更に道路競走大会として昭和村ハーフマラソン大会、せきシティーマラソン大会や可児シティーマラソン大会をはじめ各市町で市民ランナーも気軽に参加できるマラソン大会を多数開催し陸上競技ファンが増えるように取り組んでいます。

そして駅伝大会も各地で開催していますが、30回を数える中濃駅伝大会が昨今の道路事情により公道を走れなくなり中止の声が上がる中、多くの駅伝ファンの大会継続を望む声により中池公園周回コースに変更して開催しています。

岐阜国体以後、審判員の減少により大会運営が難しくなっていますが、毎年6月に審判講習会を開催してルール改正の伝達と審判員の技術向上を図るとともに、若手選手にも講習会に参加していただき審判員資格の取得をお願いしています。

中濃地区は岐阜県の真ん中に位置し交通の便も良いことから、選手の方々から競技会の開催を望まれています。中池公園陸上競技場の管理棟の老朽化で満足な競技運営が難しく、選手ならびに役員の皆さんに大変申し訳なく思っていました。平成29年度に管理棟の改修が予定されており、改修すれば様々な電子機器を使用しての競技運営ができるようになり、記録速報等も速くできて選手や関係者へのサービス向上に繋がります。そのためにも早い完成を願っています。

最後になりましたが、広報誌の創刊にご尽力された広報委員会の皆さんに感謝します。

(中濃地区陸上競技協会理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

【発足の経緯】

飛騨地区の町村では従来青年団活動が盛んで、明治以降剣道を中心とした町村対抗や郡市対抗の大会が開催されていました。大正から昭和初期には陸上競技も盛んになって、郡市単位の大会が開催されていました。

そのような中昭和45年より、「岐阜県民体育大会」が県内各地の持ち回り開催になるという話がきっかけとなり、「飛騨地区陸上競技協会」発足に向けての話が急速に進んできました。そこで、郡市の有志が高山市役所に集まって協議し、昭和42年10月に発足させることに決定しました。

【現在の活動組織】

○総務部

- ・要覧作成に関すること
- ・受発文書に関すること
- ・会議の記録に関すること
- ・表彰に関すること
- ・会員の登録に関すること
- ・その他の部に関すること

○競技部

- ・各種競技大会実施計画および諸準備に関すること
- ・プログラム編成に関すること

○強化部

- ・技術講習会に関すること
- ・強化練習に関すること
- ・一般、高校、中学校の強化に関すること
- ・県ジュニア地区対抗陸上競技大会に関すること

○普及部

- ・陸上スポーツ少年団普及に関すること
- ・陸上スポーツ少年団交流会に関すること
- ・県ジュニア地区対抗陸上競技大会に関すること
- ・陸上スポーツ少年団指導者懇談会に関すること

○審判部

- ・審判編成に関すること
- ・審判講習会に関すること
- ・審判資格昇格に関すること

○記録部

- ・各種大会の記録に関すること
- ・飛騨記録に関すること
- ・公認記録申請に関すること

○マスターズ部

- ・マスターズの大会出場に関すること
- ・マスターズ出場選手の把握に関すること
- ・マスターズの大会出場選手の練習等に関すること

○女性部

- ・女性審判員の獲得啓発に関すること
- ・女性審判員の審判技術向上に関すること

○施設用器具部

- ・施設、用器具の管理に関すること
- ・用器具の貸し出しに関すること

○会計部

- ・会計経理に関すること
- ・備品管理に関すること
- ・諸用紙の確保に関すること
- ・協賛金(広告料含)の依頼に関すること
- ・旅費支給に関すること

【主な事業】

- 春季記録会兼県高校総体地区予選会
- 地区スポーツ少年団交流会

- 飛騨選手権大会
- 秋季記録会
- 飛騨駅伝(岐阜新聞社と共同主催)

【その他の事業】

- 陸上競技技術講習会
- 地区別陸上競技大会
- 飛騨地区体育大会
- 地区高校総体陸上競技大会
- 地区中学総体陸上競技大会
- 地区高校駅伝競走大会
- 地区中学駅伝競走大会
- 各地区別駅伝競走大会
- 飛騨御嶽ハーフマラソン(新規事業)

【過去に実施していた競技会】

- 御嶽マラソン大会
- 中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会

【創立50周年を迎えるにあたって】

来年度には「飛騨地区陸上競技協会創立50周年記念誌」を発行する予定になっており、現在その準備を進めているところです。またそれに関わる『創立50周年記念式典』を、平成28年5月3日に開催する予定にしています。

過去から現在へと、多くの先輩諸氏の多大なご努力の積み重ねの賜として、この50年の重みをしっかりと受け止め、また新たな歩みを進め英期待と思っております。

今後とも飛騨地区陸上競技協会に対しまして、関係諸機関のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

(飛騨地区陸上競技協会理事長 新屋 幹男)

関係団体(協力団体)

中体連の取り組みについて

1.はじめに

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて、強化選手を毎年、選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」「生活」「仲間」を大切にして取り組んでいます。

今年度の北海道全中では、過去最多の43名の選手が全国大会参加標準記録を突破して、岐阜県選手団として出場することができました。結果は、美濃加茂東の安達楓恋さんの100mH日本一を筆頭に、「日本一1つ、入賞8つ」の成果を残すことができました。

目標にしていた「日本一3つ、入賞16」には届きませんでしたが、全国大会において、男女総合8位の結果を残すことができた

のも、日頃の各学校での取り組みと、強化練習会や合宿等で学んだことが上手く結びついて出た結果なのではないかと考えております。

2.中体連の取り組みについて

(1)強化選手の育成・強化

次年度に向けては、最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の基準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができるだけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。

また、技術面だけの指導ではなく、「全国大会」という舞台でいかに力を発揮できるかを考えたとき、「心」の指導を欠かすことはできません。全国大会という場においても、通常の大会と変わらず、戦えるようにメンタル面の指導にも力を入れております。練習会の始めには、「心」の指導を必ず入れて、メンタルを鍛えています。そこで大切にしていることは、目標設定用紙に「書く」ということです。書くことで具体的な姿が見えてきて、練習にも意欲的に取り組めるようになって考えております。

(2)次年度の全国大会の会場で練習する

全国大会の会場は普段利用している会場と違い、初めての会場での大会となるため、まずは全国大会の会場を知り、そこで練習することが大切であると考え、3月には「次年度の全国大会の会場」で合宿をしています。自分が数ヵ月後に、この会場で勝負するという気持ちを持たせるためにも、とてもよい取組だと考え、毎年実施しております。更に会場の雰囲気やトイレの場所、アップの場所など、直接見ることができるとで、安心して本番の大会に向かうことができます。

(3)様々な練習会を設定して取り組む

県強化スタッフだけの指導に留まらず、県外の優秀な指導者に指導していただくことも行っております。長距離では、豊川高校や大阪桐蔭高校に合宿に行きました。レベルの高い選手との練習や優秀な指導者の考えを学ぶことで、選手だけでなく、指導者のレベルアップも図ることができます。また、長距離以外の選手は、東海4県の合同合宿に参加して力をつけてきました。東海大会で戦うメンバーと一緒に練習することで、東海大会や全国大会でも顔を知っている選手と戦えることは大きなプラスとなっております。

また、同じ東海ブロックの選手と直接、練習することでライバル意識も高まり、日々の練習にも意欲的に取り組めるようになっております。

3.今後の指導の重点

県強化スタッフを中心に、強化練習会や強化合宿を定期的実施しながら取り組みを行っております。強化選手を選考する際にも、最低でも全国大会参加標準記録を突破できることが一つ

の条件として選考しております。しかし、今年度は過去最多の43名の選手が全国大会に参加したものの、全国大会という場で思うように力を発揮できずに終わってしまう選手がたくさんいました。

そこには、全国大会参加標準記録の突破がかかる「県通信大会」「県大会」が大きな目標となり、そこで一度、ピークが来てしまい、その後思うように力を発揮できないということが生じています。ですからあくまでも、全国大会に出場することが目標ではなく、全国大会8位入賞を目標にして、指導していく必要があります。また、全国大会では、長距離ではペースが一定ではなく、ラスト勝負の予選があったり、跳躍ではスタート時の高さがいつも以上に高いために跳べなかったりといった状況が生じております。そういう場にも適切に対応できる力をつけられるように、日々の練習においても、練習内容の工夫が求められます。そのためには、各学校の顧問と強化スタッフの連携が大切となります。ですから強化練習会や強化合宿等に、各顧問の先生の参加を推進して、連携を図って取り組んでいくことが、今後の中学部の強化において大切になると考えています。

(中体連委員長 吉田 靖)

高体連の取り組みについて

本年度和歌山インターハイにおいて、男子では800mで大垣大3年生の河村一輝君が3位に、八種競技では中津商3年生の西尾拓巳君が5位に入賞しました。彼らは昨年の山梨大会にも出場しており、その経験を生かし二人とも県高校新記録での入賞でした。女子では100mで長良3年生の新木詩乃さんが4位に、やり投で吉城3年生の中田寛乃さんが5位に入賞しました。しかし長年の目標である、平成21年奈良大会の入賞7うち優勝2を超えることには及びませんでした。

県高体連では平成24年度(ぎふ清流国体開催年度)より、高校生のみが参加するインターハイに向けた強化合宿を行っています。3月に関市中池公園陸上競技場で1泊2日の日程ではありますが、「チーム岐阜」の精神の元、「日本一になる」を合言葉に開催してきました。

近年は、情熱のある若い指導者の数も増え、新しい指導理論や指導方法を積極的に取り入れるなど、大変盛り上がったものになっています。その結果インターハイ入賞者の他にも、全国レベルの選手も少しずつ育ってきており、国体での選手の活躍が期待できるようになっています。

〈インターハイ入賞者数の変移(平成20年から平成27年)〉

	H20 埼玉	H21 奈良	H22 沖縄	H23 岩手	H24 新潟	H25 大分	H26 山梨	H27 和歌山
男子	3	4	2	1	2	2	1	2
女子	1	3	1	0	1	1	1	2
合計	4	7	3	1	3	3	2	4
優勝		2						

(高体連委員長 内田 匡俊)

トピックス

「岐阜陸上競技協会70周年記念事業」について

平成28年(2016年)に創立70周年を迎えるにあたり、本年度当初より準備委員会を組織し、準備を始めました。

***第1回準備委員会 平成27年4月5日 於:岐阜経済大学**
・基本方針・準備(実行)委員会組織について
・式典の期日、場所、参加者・祝賀会・記念誌などについて内容の検討

***第2回準備委員会 平成27年4月26日 於:長良川競技場**
・準備委員会メンバーは専務理事、常務理事と書く委員会の委員長とし、総総務部、事業部、財務部の3部門をもうける
・式典の期日を平成28年7月2日(土)県選手権2日目の午後6時からとし、岐阜都ホテルで行う
・予算総額などの検討

***第3回準備委員会 平成27年6月27日 於:長良川競技場**
・事業部から下記の提案を受け、内容を検討
1.式典の次第、表彰者、贈呈物
2.祝賀会の次第、参加者
3.記念品、記念冊子(60~70周年の歩み)
パンフレット(当日配布当日配布用)
4.予算(総額の収支)
5.祝賀会の内容(岐阜都ホテルのサマーパーティープラン)
・平成27年9月に準備委員会を引き継ぎ、第1回実行委員会を立ち上げる予定



次号紹介

3月中旬発行予定です

編集委員

木下 克己
河野 康彦
渡邊 宗治

原 清隆
江崎 尚
坂谷 幸紀

山田 緑
土屋 雅敏

